



「見たり、聞いたり、探ったり」No.238

通算 No.390

青 木 行 雄

明けましておめでとうございます  
本年もよろしくお願いたします  
令和2年元旦



伊勢・二見ノ浦の夫婦岩

### 「大嘗祭」と「大嘗宮」の事

新天皇一代で一度限りの大嘗祭が令和元年11月14日・15日、皇居・東御苑に建設された大嘗宮を中心に執り行われた。かがり火の中、古式にのっとり営まれたのをテレビで拝見した。

大嘗祭の起源は7世紀の天武、持統天皇の時代まで遡る。即位礼と並び皇位継承に伴う重要な皇室行事で、新天皇はその年に収穫されたコメやアワなどの新穀を神前に供え、自ら食して国や国民の安寧と五穀豊穰をお祈りするといわれている。

同様の祭祀は毎年11月、皇居内で新嘗祭として営まれており、この大嘗祭は新天皇が即位後初めて行う、一度限りの新嘗祭なのである。

中心儀式が「大嘗宮の儀」。秘儀のため内部の様子は明らかにされない。純白の祭服をまとった天皇陛下が、東日本の「悠紀、地方」と、西日本の「主基、地方」でとれた新穀や神酒を大嘗宮の中の「悠紀殿」と「主基殿」にそれぞれ供え、食された。



大嘗祭で正装の天皇陛下、NHKテレビより



大嘗祭で正装の皇后様、NHKテレビより

大嘗祭は宗教色が強いという、政教分離の観点から、現行憲法下で初の代替わりとなった平成時に「公的性格を有する皇室行事」と位置づけられた。10月22日に行われた「即位礼正殿の儀」などの即位関連儀式が、内閣の助言と承認に基づく「国事行為」とされるのとは性格が異なるという。

前回の平成大嘗祭は25億円超かかったと言う。政教分離原則に抵触するとの主張で各地で訴訟も起こされたというが、いずれも原告側が敗訴した。大嘗祭にかかる費用を公費で賄うとの基本方針は今回も踏襲された。

これに疑義を唱えられたのが秋篠宮さまであった。2018年11月の記者会見で「宗教色が強いものを国費で賄うことが適当かどうか」「できる範囲で身の丈に合った儀式で行うのが本来の姿ではないか」と指摘された。

天皇家の私費（内廷費）で賄える規模にすべきだとの認識を示されたのである。

政府の決定事項を皇族が公然と批判するのは極めて異例であったといわれる。宮内庁は費用を抑えるため、大嘗宮の規模を2割程縮小したほか、建物の一部をプレハブにしたり、屋根をかやぶきから板ぶきに替えたりして簡素化を図ったようだ。

過激派のゲリラ活動が活発だった前回は、妨害行為を避けるため、大嘗宮建設地の皇居、東御苑を全面休園にして部外者の立ち入りを厳重に制限したという。今回は大嘗祭直前までフェンス越しに工事の進行の様子を見られるようにするなど、国民の理解を得るためなのか、工夫もみられたようだ。当社は建設中にわずかだが、不足材のお手伝いが叶い何度か直接工事現場に行き現場を見ることが出来た。

それでは神前に御供えの新穀はどこから選ばれたのか・・・

大嘗祭では天皇陛下が大嘗宮の悠紀殿<sup>ゆきでん</sup>と主基殿<sup>すきでん</sup>でコメなどの新穀を神前に供え、御告文<sup>おつげふみ</sup>を読み上げた後、新穀を陛下が口にされる。

儀式で使う新穀は東日本の「悠紀地方」と西日本の「主基地方」からそれぞれ納められることになっていると言うことで、今回は栃木県と京都府が選ばれることになった。

平成以降、新潟、長野、静岡から東側の18都道県が「悠紀地方」と決められ、この3県より西の29府県が「主基地方」とされているといい、儀式用のコメを育てる「斎田<sup>さいでん</sup>」を設ける都道府県は、焼いた亀の甲のひびで占う「亀卜<sup>きぼく</sup>」で決めるという、古式にのっとった秘儀とされ詳細は明らかにされていないらしい。



5月頃より着工されたとと思われる大嘗宮も8月で骨組は出来ているようである



大嘗宮、トラスの組みこみ中の写真で、皮付の柱と、その他の部材の一部をお手伝いした



9月屋根が出来上り、姿が見えて来た



中央の檜が主基殿と思われる。屋根が板ばりで、9月14日に撮影

今回の儀式に先立ち、宮内庁は特別に捕獲が認められている東京都小笠原村を通じてアオウミガメの甲を確保したという。その後、都内のべっ甲職人が縦24センチ、横15センチ、厚さ約1ミリの駒形に加工したという。また大嘗祭には全国の特産品も供えられる。小豆やリンゴ、昆布、茶、オリーブ、たけのこなど、各都道府県から宮内庁に納品されたという。

大嘗宮の儀を終えた後の16日と18日には、参列者に天皇陛下がお酒や料理を振る舞われる「大饗の儀」が催された。宮殿で最も広い「豊明殿」が会場で、儀式で使うコメなどを育てた栃木県と京都府の四季を描く「悠紀・主基地方風俗歌屏風」や、日本画家の今尾景年筆の墨絵「錦軟障」(高さ約3.6m、幅約9.3m)などが飾られた。

招待客には大嘗祭や毎年の新嘗祭で神前に供えられる「白酒」と「黒酒」と呼ばれる酒も出る、白酒は白米から造る濁り酒で久佐木というクマツヅラ科の落葉樹の炭で着色したものが黒酒となる。

会場内に設置される舞楽台では舞も披露される。その内「久米舞」は日本で最も起源の古い歌舞とされ、武官の装束を着用した踊り手が太刀を抜いて勇壮に舞う。

五節舞は平安時代から大嘗祭などで演じられており、装束姿の女性たちが華麗に舞う、中世に廃れたが大正時代に再興されたという。



完成して11月26日、一般公開に参加した坂下門の中から  
写す



宮内庁庁舎前より東御苑に入る



大嘗宮の前に並ぶ観客



周りの部屋はほとんど柱のみで壁も戸もない

この「大嘗祭」や「豊穰祈る秘儀」に皇室の予算や金の話等を記すのはちょっと気のひける話だが、新聞等に公表されていたので記してみると、

宮内庁の予算は天皇ご一家や皇族方の活動、生活費などにかかる「皇室費」と宮内庁職員の人件費など「宮内庁費」に大別されるようだ、同庁の2019年度の予算は約240億円でこの内、皇室費は約117億円、宮内庁費は約123億円が計上されたという。

皇室費は天皇ご一家や上皇ご夫妻の私費「内廷費」(3億2,400万円)、その他皇族方の私費「皇族費」(約2億6,400万円)、儀式などに充てる「宮廷費」(約111億4,900万円)に分かれる。

皇室の手元金である内廷費と皇族費の額は皇室経済法などに基づいて定められている。変更するには首相や衆参両院議長、宮内庁長官などで構成する「皇室経済会議」での審議が必要という。私費といっても宮中祭祀さいしに携わる職員の人件費などが相当部分を占めるとされる。

内廷費・皇族費に対し、宮廷費は国賓の接遇といった公的活動のほか、皇居の施設整備などにも充てられるようだ、宮内庁が経理を担う公金である。大嘗祭の費用は宮廷費から支出されると記されている。

大嘗宮に使われた木材について調べてみると、国有林から皮付き丸太計1,254本が供給された、中部局東信署内から出たカラ松1,100本は柱等、関東局天竜署内から出た杉131本は外壁、北海道局十勝東部署内と上川南部署内から出たヤチダモ23本は神門(鳥居)等に用いられたと記されている。

建設は大手建設会社の入札により決められ、下請の工務店、宮大工により建設され、わずか7ヶ月あまりで完成した。建設中の資材の搬入は、桔梗門からだったが、大嘗宮の一般参観は坂下門であった。

大嘗宮の一般参観は令和元年11月21日(木)から12月8日(日)まで、多い時は1日に4万人もあり、大変多い参観者だった、木造で30棟からなる建物は大変見ごたえがあった。宮内庁によると18日間で約78万人が訪れた。

新元号に一度のこの大嘗宮の木造建築物、ビルラッシュの中に生活する東京人にとって、神が宿る束の間のオアシスと感じたのかも知れない。



30戸程の木造の建物があり、屋根は板ブキで壁がない



正面の鳥居の両側に対照的に同じ建物が作られていた



大勢の観光客



対照的にビル群が見える

「大嘗宮」で行なわれた「大嘗祭」今後何年後にあるかはわからないが、少量ではあったが木材のお手伝いとして関わった事と、私に関係する「江戸城再建の会」で、大嘗宮一般公開の期間中、会員に呼びかけ無料でレシーバーを貸し出し、ガイド付で案内をして、大変好評であったことはうれしいかぎりであった。

令和元年12月8日

#### 参考資料

日経新聞

NHK テレビ

日刊木材新聞

# 「大嘗宮一般参観」，「令和元年秋季皇居乾通り一般公開」参観経路



# 大嘗宮

大嘗宮は、天皇陛下がご即位の後、初めて新穀を皇祖・天神地祇に供えられ、自らもお召し上がりになり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝され、ご祈念になる大嘗祭の中心的な儀式、「大嘗宮の儀」のために造営されたものです。

大嘗宮の儀では、本年11月14日の夕方から夜にかけて「悠紀殿供饌の儀」が行われ、翌15日の暁前に「主基殿供饌の儀」が行われました。



悠紀殿供饌の儀では、①悠紀殿を中心とした右半分のエリアの建物が主に使用され、主基殿供饌の儀では、②主基殿を中心とした左半分のエリアの建物が主に使用されました。

① 悠紀殿	悠紀殿供饌の儀において天皇陛下が神饌(新穀をもって調製された御食・御酒など)をお供えになり、御拝礼の上御告文をお奏しになり、自らもお召し上がりになった建物
② 主基殿	主基殿供饌の儀において、天皇陛下が神饌をお供えになり、御拝礼の上、御告文をお奏しになり、自らもお召し上がりになった建物
③ 廻立殿	大嘗宮の儀に先立ち天皇皇后両陛下がお召替えなどをなさった建物
④ 雨儀御廊下	儀式中に天皇陛下がお通りになった、屋根の付いた廊下
⑤⑥ 帳殿	皇后陛下が、ご拝礼のためにお出ましになった建物
⑦⑧ 小忌握舎	男子皇族が参列された建物
⑨ 殿外小忌握舎	女子皇族が参列された建物
⑩⑪ 膳屋	神饌を調理した建物。⑩からは悠紀殿まで、⑪からは主基殿まで、それぞれ行列を立てて、神饌が持ち運ばれた。
⑫ 南神門	大嘗宮の中心部分を長方形に仕切る柴垣の東西南北及び雨儀御廊下の中央に設けられた5つの門の一つ。
⑬⑭ 楽舎	楽師が奏楽を行った建物
⑮⑯ 庭積帳殿	各都道府県の特産である農林水産物(庭積の机代物)が供えられた建物
⑰⑱ 風俗歌国栖古風檜	楽師が、歌(悠紀地方及び主基地方の風俗歌と国栖の古風)を奏した建物
⑲ 威儀檜	武官の装束(黒色又は緋色の衣)を着た者(威儀の者)が着座した建物
⑳ 衛門檜	武官の装束(緑色の衣)を着た者(衛門)が着座した建物
㉑ 庭燎舎	庭火を焚いた建物
㉒ 斎庫	新穀を保管した建物
㉓ 檜舎	参列諸員が着席した建物(大嘗宮の儀終了後、撤去済み)
㉔ 黒木灯笼	皮付き丸太で造られた灯笼(番号を付したものを以外にも各所にある)